

10月1日、会は設立1周年を迎えます。

「1周年記念のつどい」を12月17日(日)に開催します！

コンテンツ

(2面の内容)

- ◇会のホームページから賛同人に・・・お二人から「ひとこと」
- ◇澤地久枝さんのお話が聴けた・日本母親大会参加報告・・・(武田)
- ◇9条の会全国交流会の報告集を読んだ(私的感想)・・・(藤枝)
- ◇本会も後援した映画「白バラの祈り」上映会・・・(M・O)

ぜひ予定しておいてください
日程:12月17日(日)午後1時～4時
会場:市民ホールとよさと
内容(予定):
記念講演 品川正治氏
(経済同友会終身幹事)
交流会(近隣9条の会、サークル等)

詳細については今後お知らせしていきます。

品川正治氏記念講演によせて

語り継ぐ言葉

「戦争を起こすのも人間ならば、それを許さないと止める努力をできるのも人間です。」これは品川氏の言葉です。戦争と敗戦を体験して「終戦記念日」というのを二度と戦争をしないという誓いの言葉と認識し、戦後を生きてこられた人の言葉です。そして、戦後経済を支えてきた財界人としての言葉です。

その、品川氏が現在の世相に対して、語るべきことがあり、晩節つくして語り継ぐと言うならば、それを確り受け止める度量は、まだまだ私たちに残っ

ているはずで。私たちの度量とは、戦後60年、支配政党が平和憲法を改憲したくともさせなかった国民の思い、平和への意志表示のことです。

その思いがゆらいでいるのであれば、戦争体験者の「語り継ぐ言葉」を聞く「義務」があるように思います。この日の品川氏の講演は、多くの人に「現在」を考える「言霊」と成り、私たちに語りかけることでしょう。皆様のご来場を心からお待ちしています。(野口修)

街頭署名活動から地域へ

8月から北条地域にお住まいの世話人・賛同人の方たちを中心に地域署名活動を行ってきました。2人一組で一軒一軒を訪問し、9条について、平和の大切さについて語り合いました。8月、9月とも当日は34度などと厳しい暑さでしたが、励ましの言葉もたくさんいただきました。また、かみ合う会話ができない事も有り、一喜一憂する貴重な体験となりました。

参加者から(感想)

日曜なので、若い人の意見が聞けるかと期待しながら北条商店街をまわった。ある商店で、小泉流の「戸締まり論」のような「日本は軍隊を持つべき、核武装もすべきだ」という30代位の息子さんの言葉を聞いた時、私は60数年前の軍国少年だった頃を思い出した。このような発言が日本の若者の「平均的な考え方」にならないよう、署名行動などで戦争の恐ろしさと平和を訴えていかねばと思った。これまで、この地域で様々な署名行動をしたが、「主人がいないので・・・」と断られることが多かった。今回の「9条の会」の署名は、ほとんどの人が書いてくれた。憲法9条を知っているかどうかは別として、あの凄惨な戦争体験をした年寄りの心の底に戦争拒否感が根強く残っている証しのようなものが感じられ、何かホッとした気分になった。(米谷 宏)

「1周年のつどい」までの目標を決めました。

- ◆賛同人・・・市内で500人の方に
 - ◆9条署名・・・2500筆
 - ◆国民投票法案・・・2000筆
- 皆様ご協力お願いします。

梅園・東地域の集まりを持ちます。

この地域にお住まいの賛同人の皆様、おいでください。

梅園・東・稲荷前地域9条のつどい
 10月1日(日) 14時～16時
 場所: ピアツァ・アルテ音楽教室ホール(稲荷前)
 内容: 賛同人の顔合わせと交流
 連絡先: 穂積(029-858-1597)

9月14日現在

- ◆賛同人 513名
- ◆市内 395名
- ◆9条署名 1,905筆
- ◆国民投票法案 1,547筆
- (・・・) v
- ♪♪♪♪♪

戦争を想う 平和を想う 荻崎九条の会 小川 矩弘(おがわ のりひろ)

一戦争の記憶一

終戦時、私は五歳少し前でした。私の年代が、実際の戦争恐ろしさ・みじめさを体験した、一番若い世代ではないかと思えます。

この頃私は、宇都宮市の北方の河内村に住んでいました。宇都宮には中島飛行機という大軍需産業があり、終戦直前に受けた空爆はすごいものでした。南の空全体が真赤でした。翌朝、師範学校の宿舎にも爆弾が落ちて、生徒さんが大勢死んだという話を聞きました。子供の足でも三十分ぐらいのところ。見に行くとバラバラになった手足、胴などを銀色の紙に、一つ一つ包んでいるところでした。包まれた学生さん達からにじんだ血が、下に敷かれた白い布を染めていました。

その日の夕飯、さつま芋と麦飯の上に紅しょうがが載っていて、その紅色が昼間ふるえて見たあの血の色。口に運ぶ度に胸がつかまってしまいました。食物ならかぶりつく様にほうばったあのころの鮮烈な経験でした。

友達もたくさん病気で死にました。病院などは近くにはありません。子供が病気になるとただ寝て治るのを待つのみです。体力が病気に負ければ、ひっそりと冷たくなる。○○ちゃんの

お母さんの泣く声が障子ごしに聞こえ、次の日、お葬式が野につらなる。涙を流してこれについて行ったことが何度あったのでしょうか。

私の家の奥には、見たこともない身なりの男女の写真が掛けられていて、見る度に変な圧迫感にさらされたものでした。もっと変なのは、その写真がどの家にもあり、友達も一緒に日常生活では経験することのない、圧迫感を受けていたことです。この異様さはなんなのだろう。ずっと後、高校生の時、「戦争が廊下の奥に立っている。」という詩に接してこの疑問は解けました。この感覚が今の私を形作っているのかも知れません。

最後に一つ、近所にお婆さんと呼ばれる、若いきれいな女性が住んでいました。村の人々がとにかく今日・明日食べる物を作りまくっていた時、家を新築し、きれいな着物を着て生活していた。一度だけ、「坊やちゃん達、おうどん煮たので召し上がれ」と声をかけられ、あの時は大感激だったが、今思えば、何百万人の日本人が死んだ時代に別世界の様なことが、ごくごく一部の人の間では平然と行われていたのだろう。その末裔が「美しい国 日本」などと言っている。きたない国だなあ・・・



ピースエッグ
 平和を愛する
 young のコー
 ナー

金魚姫:
 NATSUOKA
 (Age: 15)

活動予定

- 10月1日(日)「定例街頭署名活動」
11時半～午後2時
中央公園『アルス』前集合
地域署名 13時 筑波支所前集合
- 10月15日(日)「定例会」
10時～ 並木公民館(予定)
設立一周年を機に新たな運動のスタイルを
作れるように、意見交換します。

9条情報玉手箱

6・10 9条の会全国交流集会報告集

▽全体会 よびかけ人あいさつ（三木睦子、鶴見俊輔、澤地久枝、加藤周一、小田実、大江健三郎）、新潟・阿賀野／千葉・小金原／沖縄・大学人／大阪・夕陽丘高校／神奈川・横須賀の各会からの報告
 ▽分散会 11 分散会司会者のまとめ、245 人の発言要旨
 ▽「九条の会」からの訴え、各地・各分野の会の結成状況
体裁 B5判 116頁 ◆定価 1000 円 本会に入荷しています

澤地久枝さんのお話が聴けた

日本母親大会

7月22日・23日に長野市で開催された第52回日本母親大会に参加しました。

1日目の分科会は「メディアを国民の手に 自立・公正な報道と民主主義」に参加しました。視聴者として良い記事や番組には「良かった」悪い記事や番組には「悪かった」の声をメディアに届けることが必要だと感じました。2日目は全体会。記念講演は「九条の会」呼びかけ人である作家の澤地久枝さんが「地球の母であること」と題して講演されました。今年76歳という澤地さんですが、最後まで熱のこもったお話でした。1955年の第1回日本母親大会にも記者として参加されていたそうです。その大会では、夫や息子達を戦争で奪われた母親達が「二度と戦争はいやだ」と泣きながら訴えた、涙、涙の集会だったと当時の様子を語られました。そして戦後61年間、日本が一人の戦死者も出さなかったことは、憲法九条があったからこそだと強調され、2度と戦争の悲劇を繰り返してはならない、地球の母として力を合わせようと訴えられました。

3日目は、負の戦争遺跡、天皇制を守るため建設された松代大本営地下壕と戦没画学生の遺作が展示されている無言館を見学してきました。この3日間は私にとって、戦争の愚かさ、非人間性を改めて認識し「2度と日本を戦争できる国」にさせないという思いを強くする機会となりました。（武田）

本会後援、先日ノバホールで鑑賞会

映画「白バラの祈り」

—戦争という暴力に立ち向かう良心と信念の記録—

ナチ独裁政権下で誰もが恐怖に身をすくめていた1943年、街中の壁に「打倒ヒトラー」の文字を書き、郵便やビラで国民に「自由」を呼びかけたミュンヘンの若きドイツ人グループがあった。「白バラ通信」と名をつけたビラがグループの名の由来。映画はその紅1点、ゾフィー・ショルが兄ハンス・ショルと共に大学内にビラをまいて逮捕され、5日後に民族裁判所法廷で死刑の宣告を受け、即日処刑されるまでを描いている。ゾフィーは取調べに当たった尋問官モーアの「命の架け橋」という誘いを拒否、裁判では長官に向かって「明日はあなたがここ＝被告席＝にたつでしょう」と言い放ち、人間の尊厳を貫き通す。

社会の大半が沈黙する中、おかしいことはおかしいと言い、それを貫いた若者たちの勇気は人々に感銘を与えてきた。元大統領ヴァイツゼッカーは、1993年の演説で、「心にまとう無関心のマントを破り捨てよ。手遅れにならないうちに決断せよ」という「白バラ通信」の1節の引用から始め、「彼らの抵抗は、希望と警告のしるしであって、それらは彼らの時代を越えてその先を指し示す」と締めくくった。おかしいことをおかしいと言えなくなってきている日本、ビラをまいただけで逮捕される時代が戻ってきている日本の今に重ねて噛みしめたい演説である。

ノバホールの上映会には昼夜2回で計約800人が参加した。映画終了後、すぐには立ち去りがたい感じでロビーに残り、アンケートに記入したり、知人と話し込んだりしている人の姿が印象的であった。本会もブースを確保し、9条署名や賛同人加入を呼びかけ、反響があった。また多くの顔見知りたちが立ち寄ってくれた。（M.O.）

青い空に赤とんぼが舞い、黄金色に輝く田んぼに「美しい国、日本」を感じます。この美しさをいつまでも残したいものです。「憲法9条の会つくば」が発足してから一年になります。一周年を五百人を越える賛同人の皆さまと共に迎えられることをうれしく思います。

ポスト小泉は安倍晋三氏、といった情勢です。ついに根っからのタカ派首相の登場ということでしょうか。彼は、現行憲法のまま解釈変更により集団的自衛権の行使を容認し、憲法が現実に合わせていないとして「全面改正」をめざすようです。また「教育パウチャー（教育利用券）制度の導入や「公」の意識を養う教育改革をし、教育に格差を持ち込み、「国のために命をかける」という美しい日本の伝統の尊重と愛国心あふれる美しい日本人」を創るのだそうです。私たちの国はいつたいどこへ連れて行かれるのでしょうか。「美しい国、日本」を汚して欲しくありません。日本国憲法・九条の精神を大切にしていきたいと願う者たちにとっては、いよいよ正念場に立たされる時がやってきたということでしょう。負けてはいられませんね。（清）

新しい賛同人から

らじう

渡辺正幸さん

敗戦から1年後中国から「引き揚げ」てきて広島に上陸したその日に1年間私の背で逃避行を共にした弟が栄養失調で絶命しました。母の悲しみが今にしてよく判ります。逃げ惑う必要はないことを実感し、戦争はコリゴリだ」という思いと「日本は東洋のスイスに」という理想を国民が共有していると思えます。夫と子供と教え子に銃を持たせない」という決意は「撃たせない」に変更を強いられていますが・

八代茂雄さん

職場（KEK）の「平和を考える会」MLに投稿したメールです。ここまで進んでいることに改めて驚きました。

朝日新聞 2006/8/22 に「愛国を歩く上」という記事が載っていました。皆さん、どう思いますか。

以下引用
 なぜ、若者たちは、国にひかれるのか。（中略）グループの代表岩田温さん(68)は、早大大学院で政治学を専攻している。（中略）岩田さんが、この活動を始めたきっかけは、静岡県内の高校に通っていた時の出来事だという。所属していたクラブで、戦争について議論した。有志が

書いた論文集六百部を印刷し、文化祭で配ることにした。

だが、教師は一方的に配布を禁止した。「世間より右の考え方だからまずい」「学校の場にはふさわしくないでしょ」

学校は、自分たちと違う思想を権威でつぶそうとしていた。彼にとって、反抗すべき権威は、戦後民主主義であり、平和人権教育だった。特攻隊員たちの遺書を読んだ胸を打たれた。戦後六十年を過ぎた今、「英霊」が命をかけて守り抜いた日本が溶解しつつある。（中略）そして、戦後の教育が「国への忠誠」を教えてこなかったせいだと憤る。（以下、略）

<http://procyon.kek.jp/peace/2006/asahi060822/>に関連情報あり

全国各地の9条の会はどうしてる？

6月に開かれた全国交流会の報告集を読みましょう

私的感想

『最も理想的であることが

最も現実的』

各地域の報告に「皆、頑張ってるな～」と思うばかり。特に学ぶことが無い、ということではなく、あり過ぎ。いいとこ取りもありだけど、他所の方法論が即、私たちの会に採用できる訳では無いので、やっぱり“つくば式”を創らなくちゃね～。地道にやるしか無さそうだ（ちょっと溜め息）。

私の場合一番“力と確信”を貰ったのは、やはり呼びかけ人各氏の挨拶！同じ思いを持ちながら、言葉はどれも個性的で、魅力的。それが“9条の会”の原点だ、と改めて思う。呼びかけ人だけじゃない。育った環境も感じ方・考え方も違う1人ひとりが、各々の心に願う平和。その1人ひとりが集う“会”の意味。単に数としてだけで

はなく、1人、また1人と参加する人が増えていくことの意義。

「本当に私たちに平和をもたらすのは、我々の心。優しく、楽しい世界にしようじゃありませんか」（三木睦子）

「“会”は中央集権的な組織じゃない。あなた方に何かやって下さいと頼むんじゃない。9条を守る以外は。だから、自由に話し合ってください」（加藤周一）

「1つでも多くして、潰さない。緩やかな繋がり方で、しかし、1人ひとりの志は誰からも奪われないという強いものにする」（澤地久枝）

因みにタイトルは小田実さんの言葉を拝借。良いなあ。理想は今無いから理想なんで、そのために現実を一步一步積み上げよう。大変でも、諦めて投げ出すより、実はずっと簡単で楽しい。

報告集、ぜひご一読を。（藤枝）

編集後記

発行 「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保1-10-12 1-401

電話 090-3811-3753 fax029-856-2286

<http://peace.arrow.jp/tsukuba/index.html>

郵便振込み口座：番号 00140-7-535453

加入者名

武田照子